

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人アクロス福岡	
施 設 名	福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）	
助 成 対 象 活 動 名	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
内定額(総額)	742	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	742	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>当劇場・音楽堂が期待される社会的役割（ミッション）・社会的必要性は大きく2つ。</p> <p>A 地域住民から九州一円にまで、世界一流の音楽・舞台芸術および本県の伝統文化を提供する。</p> <p>B だれもが等しく文化芸術を創造・享受できる社会的包摂事業を実施する。</p> <p>どちらも大事な両翼であり、これらをバランスよく実施していく必要がある。よって、福岡県、九州さらには西日本地域における芸術文化振興と情報発信の交流拠点施設として県民の誇りとなり、親しまれる施設を目指す。活力ある事業運営と一層の利用者サービスに務め、地域の芸術文化の持続的な成長に寄与していく。</p> <p>今回「普及啓発事業」として採択された「アクロス・学校キャラバン」では、福岡県内小学校へのアウトリーチ事業を実施。小人数参加型によるワークショップを福岡県内小学校で21回実施し、だれもが等しく文化芸術を創造・享受できる社会包摂事業を予定通り適切に実施した。</p> <p>【ヴァイオリン&ピアノ11回】 出演：景山誠治（ヴァイオリン）田中美江（ピアノ）佐野容子（ピアノ） 【バロック・フルート 10回】 出演：前田リリ子（バロック・フルート）</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>【文化的意義】</p> <p>小学生を対象とした派遣型ワークショップを実施する意義は、一般的に子どもたちは一流の演奏家による生演奏を体験する機会が極めて少ないからである。よって、音楽鑑賞とともに実際に楽器に触れながらのワークショップを交え、次世代の子どもたちに一流演奏家の生演奏を聴く機会を提供することにより、地域の芸術文化振興、音楽普及を可能としている。</p> <p>【社会的意義】</p> <p>平成20年度より実施している【学校キャラバン事業】だが、教員による評判も良く、平成30年度も38校の応募があった。福岡県内の遠隔地からの応募が多く、生の音楽体験を生徒に体験させたいとの希望が多い。今後も発展して継続していくためにも、障がい者支援施設等で実施可能なプログラムも構築し、訪問先を増やすべく企画していく。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

普及啓発事業「アクロス・学校キャラバン」では、地域の中核劇場としてアウトリーチによる音楽普及を推進できた。目標は、応募校数、実施数とも達成した。

具体的には福岡県内の小学校で21回のワークショップを実施。1か所あたり50人程度の少人数を基本とし、参加するすべての生徒が直接楽器に触れ、一流の演奏家による指導・演奏を体験させることができた。

単なる音楽鑑賞教室とならぬように体育館等の大会場はなるべく避け、音楽教室等の演奏家と身近に接することができる空間を利用した。また、実際に子どもたち全員が楽器に触れて音を出すという体験型の要素を取り入れる形で実施をした。

【応募学校数】

応募数：42校 目標36校に対し達成率116%

【実施数】

実施数：21回 目標18回に対し達成率116%

【ヴァイオリン&ピアノ 11回】

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|
| ①新宮町立相の島小学校 | ②飯塚市立高田小学校 1回目 | ③飯塚市立高田小学校 2回目 |
| ④大川市立川口小学校 | ⑤福津市立神興東小学校 1回目 | ⑥福津市立神興東小学校 2回目 |
| ⑦みやま市立関小学校 | ⑧うきは市立江南小学校 | ⑨行橋市立椿市小学校 |
| ⑩飯塚市立鯉田小学校 | ⑪筑紫野市立阿志岐小学校 | |

【バロック・フルート 10回】

- | | | |
|------------------|-------------|------------------|
| ①直方市立福地小学校 | ②古賀市立古賀西小学校 | ③須恵町立須恵第一小学校 1回目 |
| ④須恵町立須恵第一小学校 2回目 | ⑤うきは市立大石小学校 | ⑥うきは市立福富小学校 |
| ⑦中間市立中間北小学校 | ⑧行橋市立今元小学校 | ⑨直方市立下境小学校 |
| ⑩鞍手町立西川小学校 | | |

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

普及啓発事業「アクロス・学校キャラバン」では2019年5月24日より2020年1月31日まで計21回実施。無事計画通り実施することができた。準備は前年度1月より実施。出演者の日程調整等をおこなったあと、公募を実施。各学校の新年度が始まる4月のタイミングで実施学校を確定させ5月より事業を実施した。終了まで12か月に及ぶ事業であった。事業期間としては、学校行事に合わせた計画となるため適切だったと考えられる。

対して事業費についても、当初の予算通りで計画通りに進めることができた。

	予算額(円)	決算額(円)	変更額	変更率
助成対象経費の 総額	2,247,000	2,247,020	20	0.0%

想定した参加者数については、1回あたり50人以内を想定していたので、900人を目標としたが、離島の学校など生徒数の少ない学校があったため結果890人の参加者数となった。概ね目標は達成できたと考えている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点として、世界一流のオーケストラや歌手による音楽芸術の提供のほか、当助成対象活動の「普及啓発事業」として採択され実施したアウトリーチ事業「学校キャラバン」などをバランスよく実施した。

当施設の強みとして、アクロス福岡では設立団体や地域の期待に応えていくため、アクロス福岡単独での事業企画に留まらず、関係団体・民間事業者との連携・協働の強化を図ってきた。

区分	連携・協働先	連携・協働内容	事業例
音楽団体	九州交響楽団	地元プロ楽団との信頼関係の構築、共同事業の実施	ニューイヤーコンサート、公開リハーサル実施 など
行政	福岡県、福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団 (アクロス福岡自主文化共催事業実行委員会を構成)	世界一流の演奏家から、地域に根ざしたもまでのバランスよく実施	アクロス・フロアコンサート、新福岡古楽音楽祭、クラシックふえすた など
マスメディア	新聞、TV、ラジオ(FBS 福岡放送、TVQ 九州放送 他)	共同主催、共催、協賛方式による事業量の確保	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団、マリンスキー歌劇場管弦楽団、など
民間事業者	一般企業	スポンサードによる事業展開 文化芸術活動の機会提供	オービック・スペシャルコンサート(新人演奏家の発掘、紹介)など
ボランティア	ボランティア、NPO法人 とびうめの会	公演事業の協働運営 文化芸術に携わる人材の育成	ランチタイムコンサート など

その結果、大型公演を共に実施できるパートナーの存在、費用の分散による事業収支の改善、事業量の確保、企画の多様化、民間事業者に対する文化振興機会提供の増大などがアクロス福岡の強み・特色となり、質の高い大型公演の招へい、リスクが大きく取り上げにくいと言われる無名の優れたアーティストの紹介、連携施設間での共同事業の展開、民間事業者による文化芸術事業の継続性の確保などにその成果が現れている。

そして特に、鑑賞型事業だけではカバーできない地域に対する企画として、下記のように音楽振興の裾野の拡大に務めた。

協働先	内容
福岡県教育委員会、 県内市町村・文化施設	学校現場へのアウトリーチ「学校キャラバン」 施設の企画と連携「ミュージアムコンサート」ほか

以上のように、地域の文化拠点施設として音楽の魅力を広く発信することができた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当助成事業「学校キャラバン」は、鑑賞型事業だけではカバーできない地域に対する企画である。ホールに会場する機会を持たない若年層向けとして実施した。実際に楽器に触れながらのワークショップを交え、子どもたちに一流演奏家の生演奏を聴く機会を提供することにより地域の芸術文化振興、音楽普及・振興の拡大につながった。

また、地域の特性として多くの芸術団体が活躍しており、プロ・アマチュア問わず当ホールも密接に関わっている。これまでも地元の「九州交響楽団」や、福岡県内高等学校の吹奏楽部などとも協働して事業を実施してきた。その中で「学校キャラバン」にも出演している景山誠治氏を中心とした一連の事業は、特に欠かせないものとなっている。

景山誠治（ヴァイオリニスト）：アクロスヴァイオリンセミナー講師、桐朋学園大学教授

1984年ロン＝ティボー国際コンクール最高位

アクロス福岡では定期的なマスタークラス「アクロスヴァイオリンセミナー」にて若き才能の発掘に力を注ぐほか、1998年～2002年「アクロス室内楽セレクションシリーズ」2004年から「アクロス弦楽合奏団」の中心メンバーとしても活躍。

「アクロス弦楽合奏団」では、地元の九州交響楽団の協力のほか、国内トップレベルのオーケストラ（N響、都響、読響、日フィル、東フィルなど）や指導者、ソリストとして活躍する著名演奏家をアクロス福岡へ集結させた。そして当ホールオリジナルの弦楽合奏団として、定期演奏会を毎年続けている。地域の聴衆に国内トップレベルの演奏を披露することができるほか、期間中福岡から参加する若手演奏家への研鑽の場ともなり、演奏家の成熟にも繋がっている。

また、青少年を対象としたマスタークラス「ヴァイオリンセミナー」は20年以上継続している。その卒業生が九州交響楽団や読売日本交響楽団などでプロの奏者として活躍し、「アクロス弦楽合奏団」メンバーとして戻ってくるなど、当企画は地域の音楽家の育成にも多大な貢献をしている。

これら「学校キャラバン事業」の出演者景山誠治氏に関わる一連の事業などを中心に、福岡の音楽芸術の振興、発展に寄与した。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団組織が標榜する「3つの理念」のうちのひとつに「芸術文化を支える人の育成」がある。社会的役割を遂行するためには、自主・自立的な継続性ある運営体制と財政基盤の強化が必要である。

【人材面】

運営体制の確立としては、職員一人ひとりの職務能力向上が極めて重要である。よって年間の研修計画を策定し、アクロス福岡を管理運営していく上で職員として必要不可欠な知識習得を目的とした「全職員共通研修（基本研修）」と、職員の専門性の確保のための「業務内容に関連した専門研修（業務研修）」を計画的に行うことにより人材育成に努めていく。

【財務面】

財務基盤の強化では、福岡県からの指定管理料のほか、福岡市からの「自主文化共催事業実行委員会負担金」をいただき、福岡県と福岡市が共催して行う文化振興事業の実施に充てている。

自主財源を確保しつつ効率化を一層進めながら収支管理の徹底を行い、強固な財政基盤の確立を続けていく。

【各方面とのネットワーク】

他施設との人材交流にも積極的に推進し、「九州類似ホール連絡会議」「コンサートホール連絡会議」等へ参加し、事業連携に繋げている。（アクロス弦楽合奏団・所沢公演など）

九州類似ホール連絡会	大分総合文化センター、佐賀市文化会館、アルカス佐世保 長崎ブリックホール、熊本県立劇場、宮崎県立劇場、鹿児島宝山ホール、霧島国際音楽ホール、アクロス福岡 など
コンサートホール企画連絡会議	札幌コンサートホール、すみだトリフォニーホール、所沢ミューズ 新潟りゅーとぴあ、京都コンサートホール、アクロス福岡

【施設面】

当施設のメイン会場である「福岡シンフォニーホール」（座席数 1,867 席）

2021年8月1日～2022年9月30日まで 14か月の大規模改修を実施。

■計画と実行に対する「検証と改善」

これらの成果の検証・改善も必要であることから「職員人事評価シート」や「事業評価シート」の作成と面談や、外部からの「評議委員会」による事業検証や、「公社等外郭団体経営評価」を実施。現状の能力や事業実績に対する改善を行い、新たな目標・計画に生かすこととしている。